歴史地震
第 30 号（2015） 235-262 頁

［研究会記事］歴史地震研究会だより 2014 年 7 月～2015 年 6 月

歴史地震研究会幹事会

目次

1. 前号以降の歴史地震研究会の活動（2014 年 7 月～2015 年 6 月）と今後の予定 235
2. 第 31 回歴史地震研究会（2014 年 9 月 20～22 日，名古屋大会）関係 235
・ 第 31 回歴史地震研究会報告
・ 第 31 回歴史地震研究会　総会議事録
3. 幹事会議事録 243
・ 2013 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会（2014 年 8 月 11 日）議事録
・ 2014 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会（2014 年 9 月 8 日）議事録
・ 2014 年度第 2 回歴史地震研究会幹事会（2014 年 11 月 4 日）議事録
・ 2014 年度第 3 回歴史地震研究会幹事会（2015 年 1 月 30 日）議事録
・ 2014 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会（2015 年 4 月 13 日）議事録
4. 第 32 回歴史地震研究会（2015 年 9 月 21～23 日，京丹後大会）関係 249
・ 第 32 回歴史地震研究会申し込み案内
・ 第 32 回歴史地震研究会プログラム等
5. 各種お知らせ・資料 253
・『歴史地震』原稿募集のおしらせ
・ 歴史地震研究会会誌編集規程（2012 年 8 月 8 日一部改定）
・ 歴代研究会開催地一覧
・ 歴史地震研究会への入会手続きのご案内
・ 歴史地震研究会会則（2012 年 9 月 15 日改正）
・ 歴史地震研究会功績賞内規（平成 26 年 9 月 8 日変更）
・ 歴史地震研究会役員および委員名簿（2015 年 7 月 1 日現在）

1．前号以降の歴史地震研究会の活動（2014 年 7 月～2015 年 6 月）と今後の予定

2014 年
8 月 11 日（月） 2013 年度第 5 回幹事会（地震予知総合研究振興会）
9 月 8 日（火） 2014 年度第 1 回幹事会（地震予知総合研究振興会）
9 月 20 日（土）～22 日（月） 第 31 回歴史地震研究会（名古屋市　名古屋大学減災連携研究センター）
20 日　研究発表会，功績賞表彰式，懇親会
21 日　研究発表会，公開講演会，総会
22 日　巡検
11 月 4 日（火） 2014 年度第 2 回幹事会（地震予知総合研究振興会）
2015 年
1 月 30 日（金） 2014 年度第 3 回幹事会（地震予知総合研究振興会）
4 月 13 日（月） 2014 年度第 4 回幹事会（地震予知総合研究振興会）
7 月 6 日（月） 2014 年度第 5 回幹事会（地震予知総合研究振興会）
9 月 11 日（金） 2015 年度第 1 回幹事会（地震予知総合研究振興会）＝予定
9 月 21 日（月・祝）～23 日（水・祝） 第 32 回歴史地震研究会（京丹後市　京丹後市峰山総合福祉センター）＝予定

2．第 31 回歴史地震研究会（2014 年 9 月 20～22 日，名古屋大会）関係

第 31 回歴史地震研究会報告

2014 年 9 月 20 日（土）から 22 日（月）の 3 日間にわたって，名古屋市にある名古屋大学東山キャンパスを中心に，第 31 回歴史地震研究会を開催しました．1 日目および 2 日目午前に研究発表会を行い，2 日目午後には名古屋大学減災連携研究センタ

ーとの共催で，公開講演会「東海地域の地震と防災について考えるー風化させない震災の記憶」を開催しました．また，3 日目には，地域に残る昭和東南海地震や三河地震の記憶を巡る幸田町・半田市内の現地見学会を実施しました．

研究発表会には，126 名（うち招待 1 名，非会員 28 名）の参加があり，54 件（口頭 43 件，ポスター11 件）の発表が行われました．また，現地見学会には 43 名，懇親会には 79 名（うち招待 1 名，学生 2 名），公開講演会にも約 95 名の参加があり，盛会のうちに研究会を終了することができました．

プログラム

◎ 9 月 20 日(土)

【研究発表会】 会場：名古屋大学減災館（口頭発表は減災館減災ホール，ポスターは減災館減災ギャラリー）

I 中部の地震と津波（9:30－11:00） 座長: 金田平太郎

1. 平川一臣：志摩半島の完新世古津波堆積物
2. 羽鳥徳太郎：1586 年天正地震の震源域と津波
3. 河内一男：糸魚川―静岡構造線と信州大町地震の断層運動
4. 木股文昭・松多信尚：1944 年東南海地震の被害再検討 (1) 戦禍がもたらした震災
5. 武村雅之・虎谷健司：1944 年 12 月 7 日東南海地震の震度分布と被害の特徴－飯田汲事データの検証と現地調査
6. 中井春香・武村雅之：1945 年 1 月 13 日三河地震の震度分布と被害の特徴－死者数が多い要因について

II 東北の地震，津波，噴火（11:10－12:10） 座長: 石辺岳男

7. 安田容子：歴史資料にみる宮城県沿岸地域における2つの延宝五年（1677）津波
8. 蝦名裕一・今井健太郎・首藤伸夫：山奈宗真『岩手県沿岸大海嘯取調書』に記される近代以前の歴史津波痕跡について
9. 石村大輔・宮内崇裕・早瀬亮介：三陸海岸における古津波堆積物の認定と歴史津波との対比－岩手県山田町小谷鳥と宮城県南三陸町大沼におけるトレンチ調査
10. 林信太郎・樋渡蓮：鳥海山の 1801 年（享和元年）ブルカノ式噴火に伴う火山弾

III ポスター（コアタイム：13:10－14:10）

11. 蟹江 由紀・蟹江 康光・布施 憲太郎：逗子町小坪の津波絵図と津波日記 －逗子小坪と鎌倉材木座の大正関東地震津波
12. 安田容子・平川新：岩手県・宮城県・福島県における過去 400 年間の津波
13. 久永哲也・内田篤貴・浦谷裕明・小川典芳・中川進一郎・武村雅之・都築充雄：明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について（その 3）
14. 原田智也・室谷智子・佐竹健治・古村孝志：1944 年東南海地震・1946 年南海地震のアンケート調査による震度分布
15. 松多信尚・木股文昭：三河地震における死亡者と活断層および地形との関係
16. 蝦名裕一：1611 年慶長奥州地震津波に関する新出史料とその分析
17. 日名子健二・松崎伸一・平井義人：慶長豊後地震と豊府紀聞・豊府聞書
18. 松浦律子：1924 年丹沢地震、1888 年栃木の地震など、いくつかの明治・大正の地震の再検討（その 2）
19. 山本真一郎・武村雅之・都築充雄・山中佳子・宮尾浩一・小山彰：歴史地震記録に学ぶ防災・減災ガイドについて
20. 武村雅之：神奈川県南足柄市の関東大震災を歩くー石碑から読める農村復興過程
21. 石橋克彦：1454（享徳三）年に奥州に大津波をもたらした地震について

IV 東北・日本海の地震と津波（14:10－15:40） 座長: 小松原琢

22. 今井健太郎・都司嘉宣：津波痕跡高分布に基づく 1833 年天保出羽沖地震の波源再評価
23. 小諸拓也：寺院被害記録から見た文政越後三条地震(1828)の震度分布
24. 水田敏彦・鏡味洋史：1894 年庄内地震の被害と地形条件
25. 鏡味洋史・水田敏彦：1914 年秋田仙北地震による秋田鉱山専門学校被害の文献調査
26. 相原淳一・駒木野智寛：青森県深浦町椿山の津波堆積層と遺跡
27. 白石睦弥：西津軽・男鹿間における歴史地震・津波の被害と復興

V 関西の地震（15:50－16:50）座長: 大邑潤三

28. 松岡祐也：文禄五年（1596）地震における瀬戸内海周辺での被害状況
29. 西山昭仁：文禄五年(1596)伏見地震における京都盆地での被害評価
30. 新谷勝行：1925 年北但馬地震の供養塔・記念碑と関連行事について
31. 鹿倉洋介・深畑幸俊・平原和朗：近畿地方周辺の内陸歴史地震と南海トラフ地震の時空間的関係

VI 関東の地震と津波（17:00－18:15） 座長: 武村雅之

32. 村岸純・佐竹健治：1703 年元禄関東地震における東京湾奥部の津波被害の再検討
33. 中村亮一：安政江戸地震の震度分布の再現性－三次元減衰構造を考慮した統計的グリーン関数による評価
34. 石辺岳男・佐竹健治・村岸純・鶴岡弘・中川茂樹・酒井慎一・平田直：1885 年以降に関東及びその周辺で発生した中～大地震の類型化（その 2）－近年の地震検測データとの比較による震源・発震機構解推定の試み
35. 中村操・松浦律子：1855 年安政江戸地震の被害と震源について
36. 中西一郎：1854 年安政，1707 年宝永地震による城の被害

【表彰式（功績賞）】 18:15－18:30 会場：名古屋大学減災館減災ホール

【懇親会】 18:40－20:30　会場:名古屋大学生協 レストラン花の木(名古屋大学構内)

◎9 月 21 日(日)
【研究発表会】 会場:名古屋大学減災館　減災ホール
VII－ⅰ　南海トラフの地震(前半)(8:30－9:45)　座長: 松浦律子
37. 石橋克彦:1498 年明応東海地震と対をなす南海地震について
38. 都司嘉宣・今井健太郎・松岡祐也・佐藤雅美・芳賀弥生・今村文彦:種子島、および長崎での宝永地震津波(1707)の浸水高
39. 安藤正純:史料からみる宝永地震(1707 年)の際の日向国の被災状況
40. 井上公夫・中西一郎:宝永地震(1707)による高知県東洋町名留川の大規模土砂災害
41. 北原糸子:1707 年宝永地震による東海道筋損所の大名手伝普請修復について
VII－ⅱ　南海トラフの地震(後半)(9:55－11:10)　座長: 諸井孝文
42. 矢沼隆・ 都司嘉宣・平畑武則・松岡祐也・佐藤雅美・芳賀弥生・今村文彦:愛知県における安政東海地震津波の痕跡調査
43. 矢内一磨:安政の大地震と堺地域―寺院記録にみる被災
44. 鳴橋竜太郎・原田智也・佐竹健治:安政東海地震津波(1854)による五ヶ所湾地域の被害状況
45. 山中佳子:神社明細帳でみた南海トラフ地震
46. 三神厚・弘中拓斗・齊藤剛彦:南海トラフを震源とする地震による各地の揺れの体験談
VIII 西日本の地震と津波(11:20－11:50)　座長: 西山昭仁
47. 香川敬生・中村真理子・野口竜也・西田良平:1943 年鳥取地震直後のアンケートから推定される気象庁震度分布およびそれに基づく震源像
48. 松崎伸一・日名子健二・平井義人:慶長豊後地震当時における早吸日女神社の社殿位置と津波高
IX 台湾の地震及び地震全般(13:00－14:30)　座長: 林 豊
49. 塩川太郎:1935 年台湾新竹－台中地震, 新竹州の地震記念碑について
50. 石井寿・宇佐美龍夫:日本歴史地震総表について
51. 保立道久:ジャパネシアの神話と地震・噴火
52. 植村善博:帝都復興から丹後震災復興へ－小林善九郎の貢献
53. 樋口茂生・阿部裕寛・東将士・稲田晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田聡・川崎健一・楠恵子・佐藤伸司・品田正一・末永和幸・渡邉拓美:現代生成層−災害との関わりの小括
54. 今村隆正:歴史災害調査と写真の活用
【公開講演会】 15:00－17:30　会場:名古屋大学 IB 電子情報館 2 階大講義室
『東海地域の地震と防災について考える－風化させない震災の記憶』
15:00 開会挨拶　名古屋大学減災連携研究センター 福和伸夫
15:05 紀念堂とともに－天野若圓以来 120 年－　濃尾震災紀念堂 西村道代
15:50 深溝松平家の歴史に見る震災の爪痕　愛知県幸田町教育委員会 神取龍生
16:45 歴史に学ぶ防災論:濃尾・関東・東南海　名古屋大学減災連携研究センター 武村雅之
17:30 閉会挨拶　歴史地震研究会副会長 松浦律子
【歴史地震研究会総会】 17:40－18:40　会場:名古屋大学 IB 電子情報館 2 階大講義室

◎9 月 22 日(月)
【見学会(巡検)】 09:00－17:30
「愛知県幸田町・半田市 地域に残る昭和東南海地震・三河地震の記憶」
案内者:名古屋大学減災連携研究センター 武村雅之, 都築充雄, 幸田町教育委員会 神取龍生
見学箇所:本光寺(島原藩主・深溝松平家菩提寺, 家長日記・島原大変ゆかりの地, 三河地震被害痕跡), 深溝断層, 半田市雁宿公園着(昭和東南海地震慰霊碑), 光照院(昭和東南海地震関係史跡), 小栗家住宅(昭和東南海地震関係史跡)など

第 31 回歴史地震研究会 総会議事録

日時：2014 年 9 月 21 日(日)17:40－18:40
場所：名古屋大学 IB 電子情報館 2 階大講義室
1. 定足数確認
歴史地震研究会会則第 18 条により, 総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要すると定められている. 現在の会員数 291 名, 本会場内にいる会員数は 49 名で, 定足数を満たし, 総会は成立する. (林総務委員長)
2. 議長選出
松浦副会長より宍倉会員を議長に推薦. 宍倉会員が議長に選出され, ここからは議長が進行を務める.
3. 宍倉議長挨拶

4. 第一号議案 2013 年度事業報告および決算報告

(1) 研究成果発表会および講演会について

第 30 回歴史地震研究会(秋田大会)の開催について，第一号議案 1.(1)①により説明．大会日程のうち巡検は，荒天のため途中で打ち切った．他の学協会が主催する行事を 1 件共催，1 件講演したことを，第一号議案 1.(1)②により説明．(松浦副会長)

本大会(第 31 回歴史地震研究会;名古屋大会)の開催に向けての準備について，第一号議案 1.(1)③により説明．研究発表の申し込みが多かったため，口頭発表で申込まれた発表の一部をポスター発表とした．(都築行事委員長)

(2) 会誌の刊行について

『歴史地震』第 29 号を 2014 年 7 月に発行したこと，非会員への『歴史地震』の頒布価格・方法を変更したことについて，第一号議案 1.(2)により説明．多くの論文が投稿され，委員長と委員では編集作業を処理しきれなくなったため，松浦副会長と諸井監査役と小松原琢会員に編集協力をしていただいた．本号の印刷ミスでは，関係者にご迷惑をおかけした．対応として，まず，研究会の web で該当箇所の正しいページを掲載し，その後 8 月 29 日に訂正用シールを送付した．印刷ミスの原因は PDF 形式の原稿から印刷の際に生じたエラーであり，印刷所でゲラを用いた内部校正が行われていなかったことと，編集委員会が最終校正でミスを見逃したことにある．今後は，2 名で最終校正をする対策をとりたい．(金田編集出版委員長)

著作権の取り決めがなかった 17 号以前の会誌『歴史地震』に掲載された記事について，著者から研究会への著作権譲渡の承認を求める手続きを進めている．(林総務委員長)

(3) 広報活動について(石辺広報委員長)

歴史地震研究会のホームページ，メーリングリスト musha の管理・運営，他学会への大会の告知について，第一号議案 1.(3)により説明．musha は，研究会で管理・運営するメーリングリストになっている．

(4) 業績の表彰，2013 年度のその他の事業について(林総務委員長)

功績賞授賞者 1 名の決定について，第一号議案 1.(3)により説明．授与式は昨日に終了した．

その他，研究会の各事業を行うために付随する活動として，大会中の総会 1 回と幹事会 6 回を行ったことを，第一号議案 1.(3)により説明．昨年度同様，監査役に幹事会への出席を求めて，適切な審議が行えるように努めた．

(5) 2013 決算報告について(内田財政委員長)

第一号議案 2 および以下の入退会者数の資料により，2013 年度の収入と支出，秋田大会の収入と支出を報告．

2013年度 入退会者

2013年9月1日時点の会員数：263名
2014年9月1日時点の会員数：291名

■新規入会者：28名

天野英樹	鏡味洋史	田久昌次郎
荒川 宏	蟹江由紀	柴田 亮
友安航太	木戸崇之	塚田哲弥
矢内一磨	谷脇 繁	山本真一郎
松多信尚	山田 勉	小山 彰
安藤正純	坂本正夫	宮尾浩一
山口京一郎	石村大輔	伊尾木圭衣
安永純子	岡村健太郎	日名子健二
矢沼 隆	鹿倉洋介	佐々木亮道
小磯修一		以上28名

(敬称略，入会順)

■退会者：0名

図 歴史地震研究会の事業年度と年会費の納入期間について

(6) 会計監査報告（諸井監査役）
預金残高・現金・出納簿は正しく管理されている.
財務状況について，意見を述べる. 2013年度は会誌の印刷単価が増加して，単年度収支で13万円程度の赤字だが，大きな要因は会誌の印刷代の単価増である. 滞納されていた会費が納入され，2012 年度に繰越金が増加したこともあって，直ちに改善が必要な状況にはないが，赤字が続くと好ましくない.

以上の報告をもとに質疑.
（議長）第一号議案 2013 年度事業報告および決算報告を承認してよいか？
拍手で承認.

5. 第二号議案 会長選出
歴史地震研究会会則第16条1項および付則第2条に基づき，幹事会の推薦を得て，現副会長である松浦律子氏から，2014年度の歴史地震研究会会長に立候補の届け出があった. 以上，報告する.（林総務委員長）

（議長）立候補した松浦氏を次期会長として選出してよいか？
拍手で承認. 松浦氏を会長に選出.

6. 第三号議案 監査役 2 名選出
会則第16条3項および付則第3条に基づき，幹事会として諸井孝文氏と北原糸子氏，いずれも現監査役を次期の監査役に推薦するとの届け出があったので，報告する.（林総務委員長）

（議長）推薦があった諸井氏と北原氏を監査役として選出してよいか？
拍手で承認. 諸井氏と北原氏を監査役に選出.

7. 新会長挨拶と役員指名
松浦新会長より挨拶. 2014 年度の役員は，副会長に小松原琢会員，幹事は編集出版委員長に金田平太郎会員，総務委員長に林 豊会員，財政委員長に内田 会員，広報委員長に 石辺会員，行事委員長は植村会員を指名する.
各新幹事より挨拶.
行事委員長から挨拶および，次年度大会予定を案内. 2015年9月21日（月）～23日（水）に京丹後市で大会を行う計画をする. 佛教大学と京丹後市が中心になって大会の準備をする. 会場のある峰山町は，京都や大阪から鉄道で2時間半から3時間程度かかる場所であり，会場近辺の宿泊施設が少ないこと，5連休中の開催となることから，早目の宿泊予約を勧める.

8. 第四号議案 2014 年度事業計画および予算案
(1) 会誌の刊行
第四号議案 1.(2)により説明.『歴史地震』30号を2015年7月末頃に発行する計画であるが，会誌への論文投稿件数の増加に対して，編集委員会を充実させる対応策をとる.（金田編集出版委員長）
(2) 研究成果発表会，その他の事業，予算案
第四号議案により説明. 9月からが新事業年度なので，研究成果発表会については，名古屋大会は開催中，植村新幹事から説明のあった来年の京丹後大会については開催の準備，という事業計画になっている. その他，功績賞の選考，会の活動に伴う広報活動，総会・幹事会の開催を行う. 予算案はこれらの事業を行うための経費と，会費収入を計上したものである.（林総務委員長）

以上の報告をもとに質疑.
（会員） 過去の『歴史地震』の著者からの著作権譲渡の手続きは時間がかかりそうだが，予算案に計上されている歴史地震アーカイブ費は執行できるのか？
（松浦新会長） 全著作者からの著作権譲渡の手続きが終わらなくても，歴史地震のアーカイブを作成する作業の一部は着手できる見込みである.
（議長）第一号議案 2013 年度事業報告および決算報告 を承認してよいか？
第四号議案 2014 年度事業計画および予算案 を拍手で承認.
議長解任.

9. 武村会長から退任の挨拶
10. 閉会

(第一号議案 2013 年度事業報告および決算報告)
1. 2013 年度事業報告
(1) 研究成果発表会および講演会
① 歴史地震研究会（秋田大会）の開催
以下の通り，第30回歴史地震研究会（秋田大会）を開催した.
主催：歴史地震研究会，共催：秋田大学，後援：日本地震学会
会場：秋田大学教育文化学部3号館（手形キャンパス）
日程：2013年9月14日（土）～16日（月）

14 日:終日　研究発表会, 夕刻　総会
15 日:午前　研究発表会,
午後　公開シンポジウム「歴史地震から秋田県の防災を考える:東日本大震災を踏まえて」(秋田大学地域創生センターとの共催),
夕刻　懇親会
16 日:終日　巡検「岩館地震・日本海中部地震の跡を訪ねて」

研究発表会には大会参加者は 88 名(うち非会員 13 名), 研究発表は 42 件(口頭 35 件, ポスター7 件), 巡検参加者 37 名, 懇親会参加者 48 名であった.

② 共催・後援など

他の学協会が主催する以下の 2 件の行事を共催または後援した.

・第 4 回震災予防講演会「人と自然と歴史に学ぶ防災論－楽しく学び賢く防ぐ－」
2014 年 2 月 7 日(金), 場所:パシフィコ横浜
主催:日本地震工学会, 後援:歴史地震研究会

・第 91 回研究会例会・シンポジウム「歴史災害を伝える－"災害史"展示の現状と課題－」
2014 年 4 月 5 日(土), 場所:青山学院大学
主催:首都圏形成史研究会, 共催:歴史地震研究会

③ 歴史地震研究会(名古屋大会)の開催準備

以下の第 31 回歴史地震研究会(名古屋大会)の開催に向けて準備をした.

主催:歴史地震研究会, 共催:名古屋大学減災連携研究センター
会場:名古屋大学東山キャンパス
日程:2014 年 9 月 20 日(土)～22 日(月)
20 日:研究発表会, 功績賞表彰式
21 日:研究発表会, 公開講演会「東海地域の地震と防災について考える－風化させない震災の記憶」, 総会
22 日:見学会(巡検)「愛知県幸田町・半田市　地域に残る昭和東南海地震・三河地震の記憶」

研究発表の申込みが 54 件あり, 口頭 42 件とポスター12 件からなるプログラムを編成した.

(2) 会誌の刊行

① 『歴史地震』第 29 号の発行

2014 年 7 月末日に『歴史地震』第 29 号を発行した. 論説 11 編, 資料 7 編, 報告 8 編, 講演要旨 32 編, 研究会記事 1 編を掲載し, 総頁数は 322 頁であった. 論説と資料の計 18 件は, 2008 年に査読システムを導入して以降で最大である.

多くの論文が投稿され, 委員長と委員 2 名では査読手続きを含む編集作業を処理しきれないことから, 編集体制を強化して対応した.

印刷部数は 520 部, 会員 284 名および無償送付先(大学・公立図書館等)197 箇所に送付した.

② 会誌の送付・頒布方法の見直し

会誌の無償送付先には, 今後の配布の希望について問い合わせるアンケートを添付した.

非会員からの会誌の購入申し込みが多いことから, 会員数と無償送付数の比などを考慮して, 非会員への『歴史地震』バックナンバーの頒布価格を, 従来の 2,000 円／部から, 3,000 円／部(幹事会で承認が得られた場合に限る)に改めた.

③ 会誌の著作権に関する手続き

歴史地震 17 号以前の会誌に掲載された記事の著作者である各著者に連絡を取り, 著者から研究会への著作権譲渡について承認を求める手続きを進めた.

(3) 広報活動

迅速な情報提供のため, 以下の活動を行った

① 歴史地震研究会ホームページ

ホームページは, 2014 年 1 月にコンテンツの大幅な見直しと修正を行った. その他の主な更新内容は,『歴史地震』28 号(2013)の PDF 版, 大会と幹事会議事録の掲載, 2014 年歴史地震研究会(名古屋大会)の案内の掲載である.

② メーリングリスト

メーリングリスト musha の運営・管理を行った. musha の規約を改定した.

③ 大会の周知

大会への発表募集・会場等の案内や公開シンポジウムについて, 日本地震学会・日本活断層学会・日本第四紀学会・日本地質学会・史学会・日本史研究会・地方史研究協議会等へニュースレター・メーリングリスト・ホームページ掲載および掲示を通して告知を行った.

(4) 歴史地震研究に関する業績の表彰

歴史地震研究会功績賞授賞者 1 名(羽鳥徳太郎会員)を幹事会で決定し, 2014 年 9 月 20 日に授賞式を行うこととした.

(5) その他

① 総会

2013 年 9 月 14 日に総会が招集された. 総会参加者は 54 名であった. 総会議事録は, ホームページに掲載するとともに, 会誌『歴史地震』29 号に収録している.

② 幹事会

今年度は，以下の 6 回の幹事会を行い，歴史地震研究会の運営・事業について議論した．監査役には幹事会への出席を求め，適切な審議が行えるように努めた．幹事会の議事録は，ホームページに掲載するとともに，会誌『歴史地震』29 号にも収録して（2014 年 8 月の幹事会は未収録），会員に審議内容を伝えた．

2013 年 9 月 6 日（2012 年度第 6 回歴史地震研究会幹事会），11 月 5 日（2013 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会），2014 年 1 月 20 日（2013 年度第 2 回歴史地震研究会幹事会），4 月 2 日（2013 年度第 3 回歴史地震研究会幹事会），6 月 6 日（2013 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会），8 月 11 日（2013 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会）

2. 2013 年度決算報告

歴史地震研究会 2013年度 決算報告

	項目	予算額	決算額	増減	内訳
収入	2013-2014年度納入会費	780,000	531,000	▲ 249,000	177名×3,000円
	2012-2013年度以前会費	0	321,000	321,000	107口×3,000円
	2012年度以前滞納分	0	30,000	30,000	10口×3,000円
	会誌バックナンバー売り上げ	0	61,000	61,000	会誌，予稿集代
	会誌口絵代	0	0	0	22,000円未収金
	銀行利息	0	26	26	14+12（三井住友）
	秋田大会剰余金	0	30,010	30,010	
	前年度繰越	1,729,348	1,729,348	0	
	合計	2,509,348	2,702,384	193,036	
支出	秋田大会補填	50,000	0	▲ 50,000	剰余金のみ
	名古屋大会準備費	50,000	0	▲ 50,000	仮払いなし
	歴史地震29号印刷代	548,000	773,620	225,620	520部,送料・振込料込
	同編集費	20,000	23,142	3,142	査読料,編集補助,振込料込
	HP管理費	12,000	13,176	1,176	振込料216円込
	会議費	200,000	138,640	▲ 61,360	
	功績賞関連費	100,000	131,774	31,774	振込料420円込
	歴史地震アーカイブ費	100,000	0	▲ 100,000	
	雑費（通信費・文房具購入など）	60,000	17,982	▲ 42,018	
	合計	1,140,000	1,098,334	▲ 41,666	
	次年度繰越金	1,369,348	1,604,050	234,702	

2013年秋田大会 収支

	項目	金額	内訳
収入	参加費（会員）	74,000	1000円×74名
	参加費（非会員）	26,000	2000円×13名
	懇親会会費（一般）	215,000	5000円×43名
	懇親会会費（学生）	15,000	3000円×5名
	巡検参加費	185,000	5000円×37名
	弁当代	24,000	500円×48個
	合計	539,000	
支出	予稿集印刷代	75,420	130部，消費税・振込料420円込
	弁当代	25,000	500円×25個×2日
	懇親会代金	193,500	参加人数43名，消費税込
	巡検バス代	69,820	高速代6400円・振込料420円込
	巡検諸経費	96,460	保険料,謝金,昼食代飲物代
	アルバイト代	43,000	受付2名×2日,ポスター送付1名3時間
	文具代	1,300	封筒,クリアホルダー
	送付料	4,490	ポスター郵送,パネル送付
	合計	508,990	
	収支差額	30,010	剰余金

（第四号議案 **2014** 年度事業計画および予算案）

1. 2014 年度事業計画案

2014 年度（2014 年 9 月～2015 年 8 月）は，以下の事業を行う計画である．

(1) 研究成果発表会および講演会

① 歴史地震研究会（名古屋大会）の開催

以下の第 31 回歴史地震研究会（名古屋大会）を開催中である.

主催：歴史地震研究会，共催：名古屋大学減災連携研究センター

会場：名古屋大学東山キャンパス

日程：2014 年 9 月 20 日（土）～22 日（月）

20 日：研究発表会，功績賞表彰式，

21 日：研究発表会，公開講演会「東海地域の地震と防災について考える－風化させない震災の記憶」，総会

22 日：見学会（巡検）「愛知県幸田町・半田市 地域に残る昭和東南海地震・三河地震の記憶」

② 歴史地震研究会（京丹後大会）の開催準備

以下の要領で第 32 回歴史地震研究会（京丹後大会）を主催するために必要な準備を行う.

会場：京都府京丹後氏峰山町総合福祉センター

日程：2015 年 9 月 21 日（月）～23 日（水）

研究発表会，功績賞表彰式，公開講演会，総会，巡検

大会での発表申込件数が年々増加していることから，発表の件数に制限を設けて研究発表を募集するなどの対応策をとる.

(2) 会誌の刊行

①『歴史地震』30 号の発行

会誌『歴史地震』30 号を 2015 年 7 月末頃に発行する. このため，第 31 回歴史地震研究会での発表に基づく論文とその他の記事を募集し，編集規定に沿って編集作業を行う. 会誌への論文投稿件数が増加していることから，編集委員会を充実させるなどの対応策をとる.

② 会誌の送付・頒布方法の見直し

会誌『歴史地震』29 号に同封したアンケートの結果をもとに，無償送付先（公立図書館，大学等研究室など）の見直しを行う.

③ 会誌の著作権に関する手続き

歴史地震 17 号以前の会誌に掲載された記事の著作者である各著者に連絡を取り，著者から研究会への著作権譲渡について承認を求める手続きを引き続き進めていく.

(3) 広報活動

会誌『歴史地震』29 号の PDF 版，幹事会議事録，ならびにシンポジウムの案内等をホームページに掲載する. また，第 32 回歴史地震研究会（京丹後大会）への発表募集・会場等の案内や公開シンポジウムについて，ホームページを通して周知を行うとともに関連学会へ告知する. メーリングリスト musha の運営・管理を行う.

(4) 歴史地震研究に関する業績の表彰

2014 年 9 月 20 日に歴史地震研究会功績賞授賞式を行う.

歴史地震研究の進歩・発展，歴史地震研究会の発展に対して顕著な功績を挙げられた方を，歴史地震研究会功績賞の授賞対象者として選考する.

(5) その他

上述の各項に関して，適切な審議を行うため，2014 年 9 月 21 日の総会および監査役を招いた 6 回程度の幹事会を開催する.

2. 2014 年度予算案

歴史地震研究会 2014年度 予算案

	項目	予算額	内訳
収入	会費	873,000	291名×3000円
	前年度繰越	1,604,050	
	合計	2,477,050	

支出	歴史地震30号印刷費	780,000	(1500円×520部,送料,諸費用込)
	同編集費	25,000	査読料＋編集補助謝金
	HP管理費	13,000	
	会議費	300,000	京都-東京2名×6回
	功績賞関連費	100,000	
	歴史地震アーカイブ費	100,000	
	雑費（通信費・文房具購入など）	60,000	
	大会関係費	50,000	
	合計	1,428,000	

次年度繰越金	1,049,050

３．幹事会議事録

2013 年度第 5 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2014 年 8 月 11 日(月)17:00～20:00
場所:地震予知総合研究振興会
出席者:武村雅之(会長)・松浦律子(副会長)・林 豊・内田篤貴・都築充雄・石辺岳男・金田平太郎(以上, 幹事)・
諸井孝文(監査役)

1. 2014 年大会について

都築行事委員長および武村会長から, 9 月 20 日(土)～22 日(月)に名古屋大学で実施予定の大会の準備状況について, 以下の報告があった.

・名古屋大学減災連携研究センターに大会と市民講演会の共催を依頼していたが, 7 月 24 日に承認の回答があった. 共催により, 会場使用料は, 研究発表会とポスターセッションに使う減災館は無料, 公開講演会に使う IB 電子情報館大講義室は約 5,000 円／時間となった.
・研究発表会に発表申込みがあった 54 件全ての講演要旨を受領した. 座長は未決定. 参加申込みはこれまでに 95 名. 講演予稿集は 8 月末に入稿予定.
・公開講演会のチラシは名古屋大学減災館にて配布中. 講演の依頼に対し, 各講演者から了承を受けている.
・巡検の対象である幸田町と半田市を 6 月 17 日に下見し, 巡検に必要な各種の予約も完了した. 参加希望者は 46 名. うち 7 名の生年月日を未確認だが, 旅行保険に必要なので確認する.

以上の報告を受けて, 研究発表会の会場は机を減らして 150 席設けること, 講演予稿集の発行部数は 150 部とすること, 巡検の会費は経費見積りと参加者数から一人 5,000 円(昼食代込)と決定した. また, 大会の経費の精算方法, 講演料の支払い方法, 参加費等の領収証の発行方法を確認した.

2. 新規入会者の承認

内田財政委員長から, 伊尾木圭衣氏・安永純子氏の入会申請について報告があった. この 2 名の入会を承認した.

3. 財政状況と会費の納入状況

内田財政委員長から, 2013 年度が単年度赤字になるが, 繰越金があるので当面は対応できると見込みであると報告があった. また, 2013 年度会費の未納者へ納入依頼の通知を出し, 未納者は 35 名から 25 名に減ったと報告があった.

4. 歴史地震の発行について

金田編集出版委員長から,「歴史地震」第 29 号の発行について以下のとおり報告があった.

・予定通り 7 月末日に発行した.
・発行の経費は, 印刷, 製本, 発送費(前田印刷株式会社)が計 773,188 円で予算を 225,188 円超過. 編集補助謝金が 6 時間で 6,000 円. いずれも振込済.
・カラー口絵代 1 頁 22,000 円を近日中に著者に請求予定.
・論説 11 編, 資料 7 編, 報告 8 編, 講演要旨 32 編, 研究会記事 1 編で, 総ページ数は 317. 520 部印刷し, 481 部(会員 284 部, 無償 197 部)を送付済.
・各寄贈先の研究機関・図書館に対して,「次号以降の寄贈をご希望の場合は, 必ず返信いただきますよう」などと記した文書を同封し, 9 月末日までに FAX または電子メールで回答を求めている.
・著者からの指摘で p.63 と p.66 の図に印刷ミスが判明した. お詫びと訂正をホームページに掲載し, musha メーリングリストでも報告した. PDF ファイルの内容に問題がないことから, PDF 通りに印刷されなかった理由を印刷所で調査中. 訂正ページの送付は印刷所負担で対応予定.

以上の報告を受けて議論し, 印刷ミスの部分に貼付できるシールで対応する方法を印刷所に依頼すること, そのうえで次号に訂正の記事を掲載することとした. また, 今後の出版費の抑制策として, 寄贈先からの回答を待って, 無償送付先を見直すことを確認した.

5. ホームページの管理・運営などについて

石辺広報委員長から, 歴史地震研究会ホームページの更新内容について報告があった. 6 月 18 日に, 研究会の大会の案内の更新, 議事録の追加, バックナンバー頒布の情報の更新をした. 8 月 6 日には「歴史地震」29 号の印刷ミスと訂正, 9 日には次号の歴史地震の原稿募集を掲載した. 今後, 歴史地震の古い号の目次を確定版へ更新などを予定している.

6. メーリングリストの管理・運営について

石辺広報委員長から, メーリングリスト musha に新規 1 名, 登録アドレスの変更 2 名の申込みがあり, それぞれ登録・修正したと報告があった.

7. 今後の研究会と会誌の運営について

大会での発表申込件数が近年増加していることへの対応策について議論した. 今年の大会のプログラムは非常にタイトであるため, これ以上に口頭発表を増やすには, 一人当たりの発表件数か発表時間の制限, 大会期間の延長, セッションのパラレル化などのうち何らかの工夫をする必要がある. 検討の結果, 当面は, 発表の件数を一人口頭 1 件までに制限し, 発表が多い場合は市民講演会と口頭発表を同時に実施する方針で対応することを確認した.

会誌への投稿件数が増加したことへの対応策について議論した.「歴史地震」29 号では, 編集委員による編集作業の処理能力を超える多数の論文が投稿されたため, 諸井監査役, 松浦副会長, 小松原琢会員の協力を得て編集作業を進めざるを得なかった. 今後は, 新たな編集委員を追加するほか, 基本的に幹事全員を編集委員に加えることで, 編集委員会を充実させる方針を確認した.

また，繰越金があるために当面の財政には問題はないものの，再来年以降の会費については検討すべき課題であることを確認した．

8. 会誌の残部の一部を処分することについて

林総務委員長から，「歴史地震」第 22 号の残部が 102 部あり，頒布希望数に比して十分すぎることと保管場所を圧迫していることから，うち 72 部を廃棄処分する提案があり，了承された．

9. 次回の幹事会

2014 年 9 月 8 日（月）17 時からを予定．

2014 年度第 1 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時：2014 年 9 月 8 日（火）17:00～19:45

場所：地震予知総合研究振興会会議室

出席者：武村雅之（会長）・松浦律子（副会長）・林　豊・内田篤貴・都築充雄・石辺岳男・金田平太郎（以上，幹事）・
諸井孝文（監査役）・新谷勝行・植村善博（以上，会員）

1. 新規入会者の承認

内田財政幹事から，岡村健太郎氏・日名子健二氏・矢沼　隆氏・鹿倉洋介氏・佐々木亮道氏・小磯修一氏の入会申請について報告があった．この 6 名の入会を承認した．

2. 歴史地震研究会功績賞内規の変更

林総務幹事から，歴史地震研究会功績賞内規第 4 条の「授賞式は，会員総会の場において行い」を「授賞式は，総会など会員が自由に参加できる場において行い」に変更することが提案された．変更を承認し，本日から適用することとした．

3.『歴史地震』の発行状況

金田編集出版委員長から，『歴史地震』第 29 号で生じた印刷ミスについて，印刷所負担で修正シールの作成・配布を行ったこと，および，原因を調査中であることが報告された．

4. 2014 年大会について

都築行事委員長から，以下のとおり報告があった．

(1) 研究発表会について

本日の新規入会者の承認で，発表申込者は全員が会員であることを確認できた．座長は決定済，予稿集は 150 部印刷済，参加申し込みが現在 107 名．予稿集の印刷後に発表者の変更が 1 件あり．

(2) 公開講演会について

チラシを名古屋大学減災館にて配布中．講演依頼の手続きは完了．一部の講演者は，リハーサルを兼ねて 5 月 31 日の中部歴史地震研究懇談会で講演を行ったところ，好評であった．今後，講演者を懇親会へ招待する案内，講演料と講演会場使用料の支払い準備をする．

(3) 巡検について

下見と各種予約は完了，詳細行程を公開済，巡検の会費は昼食代・資料代込みで 5,000 円とする．台風時の対応は当日までに確認する．巡検資料は作成中．

(4) その他

アルバイト学生確保済，功績賞の賞状は受取済．今後，領収書と弁当引換券の発行準備，備品の確認をする．

以上の準備状況を確認し，今後，不足している消耗品類を大会までに調達することを含めた準備を進めることとした．公開講演会の参加者数の把握方法は配布資料の残数で行うことにした．また，公開講演者の『歴史地震』30 号には，予定ではなく実際の発表者で研究会のプログラムを掲載し，公開講演会の各講演 1～2 頁の報告を掲載する方向で，記録を残す方針を確認した．

5. ホームページの管理・運営などについて

石辺広報委員長から，歴史地震研究会ホームページの修正内容について報告があった．修正点は，最新のお知らせの更新，第 31 回歴史地震研究会（名古屋大会）のプログラムと会場アクセスの掲載などであり，8 月 19 日にホームページを更新した．

6. 2015 年大会について

新谷会員と植村会員から，京丹後市で 2015 年 9 月 21 日（月）～23 日（水）に開催する計画について説明があった．会場には，京丹後市峰山町総合福祉センターを利用し，1 日目に研究発表会と総会，2 日目に研究発表会と公開講演会（午後），3 日目に見学会の日程が示された．また，この日程の直前にウルトラマラソンが行われる見込みであり，参加者が宿泊施設の確保を早めに行うことが望ましいという情報が示された．

議論の結果，京丹後市で大会を開催する計画および必要な下見・会場費等の経費を含む予算について，総会に諮ることを決めた．また，参加者に早めの宿泊施設予約を勧めるため，日程と場所の案内を総会後の早い機会に行うことを確認した．

7. 2016 年大会について

松浦副会長から，大槌町での開催について提案を受けていることが報告された．

8. 総会について

林総務委員長から，9 月 21 日の総会に向けての準備について説明があった．

幹事会から提出する議案は，第一号議案 2013 年度事業報告および決算報告，第二号議案　会長選出，第三号議案　監査役選出，第四号議案 2014 年度事業計画および予算案とすることを決めた．今後，各議案の作成と議事の進め方の検討について，準備を進めることとした．

9. 次回の幹事会

幹事会メンバーの交代後に，次回の幹事会の日程を決める．

2014 年度第 2 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時：2014 年 11 月 4 日（火）17：00～20：00

場所：地震予知総合研究振興会

出席者：松浦律子（会長）・小松原琢（副会長）・林　豊・内田篤貴・植村善博・石辺岳男（以上，幹事）・新谷勝行（行事委員）・都築充雄（前年度幹事）・北原糸子・諸井孝文（以上，監査役）

1. 新規入会者の承認

内田財政委員長から，青木正美氏・加納靖之氏の入会申請について報告があった．この 2 名の入会を承認した．

2. 2014 年大会のまとめ

都築前行事委員長から，2014 年 9 月 20 日（土）～22 日（月）に開催した大会について，以下の報告があった．

- 名古屋大学東山キャンパスを中心に開催し，研究発表会のほか 21 日午後には公開講演会「東海地域の地震と防災について考えるー風化させない震災の記憶」を，22 日には地域に残る昭和東南海地震や三河地震の記憶を巡る幸田町・半田市内の現地見学会を実施した．参加者も多く，天候にも恵まれ，盛況のうちに大会を終了した．
- 研究発表会は参加者が 126 名（招待 1 名，会員 97 名，非会員 28 名），講演件数が 54 件（口頭 43 件，ポスター11 件）であった．公開講演会参加者は約 95 名，現地見学会参加者は 43 名，懇親会参加者 79 名（招待 1 名，一般 76 名，学生 2 名）であった．
- 講演数が近年で最大であったため，時間調整に苦慮した．具体的には，両日とも昼休みが約 1 時間などタイトなプログラムを組んだ上で，口頭発表は 1 人 1 件までとし 2 件以上の発表がある方の 2 件目以降はポスター発表にしていただくことで，なんとかプログラムを組むことができた．
- 講演要旨は多様な方法で受け付けたが，手紙による 1 件以外は電子データで投稿された．ただし，要旨を指定のメーリングリストではなく行事委員の個人アドレスに投稿された方がいて，気づくのが遅れた．
- 各種申込みの直前キャンセルの対応に右往左往した．
- 準備の経緯について
- 大会関連資料（案内原稿，幹事会資料，公開講演会関係資料，講演要旨集原稿，大会事務全般の資料，巡検関係資料，総会関係資料，当日の事務資料，そのほか）を本年度の行事委員会に引き継いだ．

内田財政委員長より，2014 年の大会の決算報告があった．収入は，参加費・懇親会会費・巡検参加費，支出は予稿集印刷費・会場使用料・懇親会費・巡検代・公開講演会講師謝金・アルバイト代で，29,984 円の余剰金が発生した．

3. 2015 年大会について

新谷行事委員および植村行事委員長から，2015 年大会の実施概要案と準備状況について報告があった．

- 会期は 2015 年 9 月 21 日（月）～23 日（水），研究発表会・公開講演会・総会の会場は京丹後市峰山総合福祉センターを予約済．巡検先は，峰山町の震災復興遺産と丹後震災記念館，網野町の郷村断層などを候補．
- プログラム案は，20 日午後に会場準備，21 日と 22 日午前に研究発表会（口頭とポスター），21 日夜に懇親会，22 日午後に公開講演会と総会，23 日に巡検．
- 研究発表会の口頭発表と公開講演会は峰山総合福祉センター2 階のコミュニティーホール，ポスターセッションはホール前のロビーまたは研修室の使用を想定．ポスターのパネルは 10 枚ある．会場備え付けのプロジェクターはあるが，動作に不安があるため，別に用意する予定．
- 公開講演会は，北丹後地震と北但馬地震関係の内容を予定している．
- ホールは食事禁止だが，センター内の別の部屋で食事可能な場所があり確保している．会場近くに複数の飲食店があり，営業日は後ほど調べる．
- 懇親会はプラザホテル吉翠苑を予約済．
- 巡検先の候補地の中には，大型バスでは行けない場所があるが，中型バスまたはマイクロバスなど 2 台を使用すれば 40 名程度の巡検を行うことはできる．
- 京都や大阪から京丹後市へのアクセスには，電車・バス等で 3 時間前後かかる．初日朝からの参加者の多くは前泊が必要で，巡検の終了時刻・場所は帰路に配慮した設定が必要．
- ウルトラマラソンの時期と近い日程であること，業務のため米軍関係者の宿泊も見込まれることから，早目の宿泊の予約を勧めたい．
- 大会の内容がもう少し固まった段階で，京丹後市および京丹後市教育委員会に対して共催の依頼をすることとしたい．

以上の報告を受け，日程と会場は案の通り実施することが適切だと判断された．行事委員は，主に会場関係を担当する植村行事委員長と新谷行事委員に加えて，主にプログラム編成を担当する委員 2,3 名で構成する方針とし，追加の委員の人選を進めることを決めた．行事委員会の構成が決まり，メーリングリストの準備ができれば，日時，会場，講演募集，会場から近い宿泊施

設のリストからなる大会のおしらせ第一報をホームページに掲載することを決めた．公共交通機関によるアクセスの案内は，春のダイヤ改正後に行う．

4. 広報について

石辺広報委員長から，以下の通り報告があった．

・大会終了と役員の交代に伴うホームページの修正をした．

・メーリングリスト musha に新規 1 名の申込みがあり，リストに登録をした．

・次回のホームページ更新時に，最新の研究会開催情報を京丹後大会に変更などの予定．

石辺広報委員長から，以下の通り提案があった．

・メーリングリスト musha が歴史地震研究会の正式なメーリングリストになったので，任意登録を改めて，会員全員と非会員任意登録とした方が，おしらせを円滑に行える．

・musha に登録していない会員がいる現状では，共催や後援行事の周知については web 掲載も行って周知を図るのがよい．以前は，イベント情報の項目がホームページにあったが，更新履歴がないために幹事会で議論の上で削除した経緯がある．

・問い合わせ先をまとめたページを新たに設けてはどうか．

提案を受けて次のような議論があった．

・メーリングリストで歴史地震研究会のおしらせをすることは大きな変更なので，よく検討をして総会に諮った方がよい．ただし，登録者全員が自由に投稿できる運営方法のままで会員全員に登録義務があるメーリングリストに移行することは無理がある．

・主催が他団体であっても，歴史地震研究会が共催や後援をするとなれば，研究会の行事でもあるのだから会員に周知する必要があるが，会誌が年一回発行である現状では，ホームページに掲載する以外に有効な方法はない．

・ホームページに問合せ先をまとめたページを作ることは，重要ではない問合せを増やすことになるかもしれない．

5. 歴史地震の発行について

欠席の金田編集出版委員長から事前に提出された資料を確認した．資料には以下のとおり報告があった．

・『歴史地震』30 号の原稿募集のおしらせは，ホームページ掲載と musha メーリングリストへの配信で行った．原稿は 2015 年 1 月 16 日締切，7 月末発刊予定．

・『歴史地震』の無償送付先へのアンケートは 9 月末が回答期限で，108 か所から回答（回答率は 55％）があり，継続希望が 95，継続希望しないが 13．

資料を受けて，次のような議論があった．

・継続希望しないと回答した都道府県立図書館はないようだ．また，無回答の機関の中には，納本の義務がある先や，むしろ研究会が積極的に無償送付すべき対象が含まれている．次回以降の幹事会で，具体的な無償送付先の変更策を検討したい．

6. 歴史地震の転載許可について

林総務委員長から，引用転載許可願いがあったことが報告された．日本建築学会が編集中で技報堂出版から刊行予定の刊行物中に，歴史地震 21 号と 26 号に収録された論文中の図の転載することについて，許可を求めるものであった．

両号とも，論文の著作権は著者から研究会に譲渡済みであるから，研究会として転載の可否を判断できること，本件については承諾することを確認した．

7. 後援事業について

林総務委員長から，後援している国際第四紀学連合（INQUA）第 19 回大会（2015 年 7 月 27 日～8 月 2 日，名古屋）について，主催者事務局から発表募集等の案内が届いたことが報告された．ホームページに募集の概要を掲載して会員に周知を図ることとした．

松浦会長から，第 5 回震災予防講演会「豪雨災害の歴史と日本人―水害・土砂災害との共存を目指すために―」（2015 年 2 月 6 日，横浜，日本地震工学会主催）の後援依頼が届いたとの報告があった．後援すること，おしらせはホームページに概要を掲載して会員に周知を図ることとした．

8. 会の運営について

林総務委員長から，次のような提案があった．歴史地震研究会はここ数年で，急に会員数が増加して研究成果の発表に関する活動も活発になってきたことに伴って，会の事業の運営について課題が出てきているので，各担当委員会単独では解決が難しい課題について，解決の方向を探る必要がある．今回は問題点のリストアップなどをしたい．重要だと考えられる課題の例として，次のようなものがあり，このうちのいくつかはこれまでも幹事会でも対策を検討してきた．

・投稿件数が多くなった『歴史地震』の編集体制

・発表申込件数が多くなった研究発表会のプログラムの考え方

・会誌発行単価の増加で会の収支が赤字傾向になったことへの対策

・会員数の増加に伴う事務量の増加への対策

議論をし，これら以外の大きな問題点として，

・ホームページとメーリングリストを静岡大学のサーバに依存していること

・ホームページとメーリングリストの運営の方法

があげられるとの指摘があった．また，2015 年大会の研究発表会でも発表数の上限は 50 件程度であるから，発表形態は希望に沿えない場合があると明示して発表の募集をするべきとの意見があり，行事委員会で検討してもらうこととなった．

9. 次回の幹事会
2015 年 1 月 30 日(金)17 時 30 分からを予定.

2014 年度第 3 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2015 年 1 月 30 日(金)17:00～20:00
場所:地震予知総合研究振興会
出席者:松浦律子(会長)・小松原琢(副会長)・林 豊・内田篤貴・金田平太郎・石辺岳男(以上, 幹事)・
新谷勝行(行事委員)・北原糸子・諸井孝文(以上, 監査役)

1. 入退会者の承認
内田財政委員長から, 木呂子豊彦氏・盆野行輝氏・藤村健雄氏・坂本真由美氏の入会申請と, 鹿倉洋介氏の退会申請について報告があった. 以上の 4 名の入会と 1 名の退会を承認した.
2. 講師紹介の依頼への回答について
松戸市生涯学習推進課が 6～7 月に開講する予定の成人講座「歴史に学ぶ防災」について, 本会へ講師の紹介の依頼があったと, 内田財政委員長から報告があった. 対応を検討し, 適切と思われる会員を選んで紹介することとした.
3. 歴史地震の発行について
金田編集出版委員長から, 以下のとおり報告があった.
・『歴史地震』30 号の原稿を締め切り, 昨年よりやや少ない 17 編の投稿があった. うち 14 編は名古屋大会での発表内容に関するものであった.
・編集担当の割振り案と今後の編集スケジュール案を作成した. 5 月末までに各論文の編集を終了し, 7 月末に発刊する予定である.
報告を受けて, 今後の編集スケジュールを確認した. また, 編集委員であっても当該論文の担当編集者ではない者を査読者として割り振ることは問題ないことを確認した. 昨年の無償送付先に対して実施したアンケートの結果をふまえて, 今後,『歴史地震』の具体的な無償送付先を決めることとした.
4. 2015 年大会について
行事委員会に小松原 琢副会長, 堀川 晴央氏, 行谷 佑一氏が行事委員として加わった. この 3 委員は, 主にプログラム編成を担当する.
新谷行事委員から, 2015 年大会の実施概要案と準備状況について報告があった.
・前幹事会で報告の通り, 会期は 2015 年 9 月 21 日(月)～23 日(水), プログラム案は, 20 日午後に会場準備, 21 日と 22 日午前に研究発表会(口頭とポスター), 21 日夜に懇親会, 22 日午後に公開講演会と総会, 23 日に巡検.
・会場近くで昼食可能な場所と弁当を販売している店を調べた.
・巡検先の候補地のうち郷村断層と琴引浜は大型バスが入らないが, 参加人数によるが, 中型バス(25 人), 中型バスとレンタカー(計 38 人), 中型バスとマイクロバス(計 50 人)の使用で実施可能と考えられる. 網野駅または峰山駅を 16 時頃の解散なら東京・仙台等への当日中の帰着が可能と見込まれるので, そういうスケジュールで巡検ルート案を設定した. 一度, 下見をしたい.
以上の報告を受け, 次のことを決定した.
・昼食可能な場所は十分にある. 大会会場で, 参加者に飲食店等の場所を示した地図を配布するのがよい.
・巡検のタイトルを「北丹後地震(1927)からの復興」とし, 巡検費用は, 昼食代・保険代・資料代込で 1 人当たりおよそ 6 千円とする.
・講演申込は 5 月 29 日(金)締切, 会員のみが申込み可能, 1 人最大 2 件(うち口頭は 1 件)までとする. 講演要旨と参加申込は 7 月末締切とする. いずれも申込受付後に行事委員から申込者に返信することで処理漏れを防ぎたいので, あらかじめそのこと募集時に伝えておく.
・日程と会場, 講演募集などを含む大会案内第 1 報を行事委員会で作成し, ホームページ掲載, 地震学会ニュースレターへの投稿とともに, 他の学協会への案内をする.
5. 2016 年大会について
松浦会長から, 2016 年大会の候補地となっている大槌町の会場等の情報に関して報告があった.
・1 月 20 日に北原前会長と岡村健太郎委員(東京大学生産技術研究所)が大槌町を訪問して, 大槌町教育委員会事務局と打合せた. その概要は以下の通り.
・大槌町のお祭りとその準備期間を避けて町内で大会を開催するには, 9 月 9 日(金)～12 日(月)のうちの 3 日間が候補になる.
・吉里吉里集落には大会会場に適した場所はない. 会場の候補地は大槌町中央公民館で, 講演会用の会議室(椅子のみで 200 人, 机ありで 100 人程度を収容), ホール(600 人)がある. ポスターセッションの場所も確保できる. この会場で実施するなら, 大槌町が後援して会場使用料を無料にし, 町民のための講演会の広報に協力することも可能だろうとのこと.
・大槌町には東京から新花巻・釜石経由で 5 時間半程度, 大阪からいわて花巻空港・釜石経由で 5 時間程度かかる. 大会初日を午後開始にするか, 前泊を前提とするかのいずれかになる.
・大会参加者向けの宿泊施設としては, 大槌町内にはやや高級な三陸花ホテルはまぎく(旧浪板観光ホテル)に限られ, 近くで宿泊施設が充実している場所は釜石市になる.

・大槌町では今年の 8 月に町長選挙がある.

以上の報告を受け, 次のような議論があった.

・研究発表会を釜石市内で, 公開講演会を大槌町で, 巡検の目的地を大槌町吉里吉里等とする大会が現実的だろう. その場合は, 釜石市で会場費が発生する.

・あるいは, 宿泊施設として旧浪板観光ホテルをまとめて予約する方法はあるが, 宿泊費等と会場費で会員の負担は大きくなるだろう.

6. 広報について

石辺広報委員長から, 以下の通り報告があった.

・ホームページの情報について, 最新の研究会開催情報を京丹後大会に変更, 役員の追加, 会誌の原稿募集の削除, などの更新をした.

・次回のホームページ更新時に, 歴史地震第 29 号の PDF 版のアップロードや, 後援している行事の情報の変更, 幹事会議事録の掲載などを予定.

・京丹後大会のメーリングリストを運用している. 初期は一部の委員に正しくメールが届かない原因不明の問題が発生したが, 現在は問題ない.

・京丹後大会の第 1 報を 11 学協会に案内する. 予定している案内先と案内方法を示した.

7. 次回の幹事会

2015 年 4 月 13 日(金)17 時 00 分からを予定. 研究会の会計収支の問題も議題とする.

2014 年度第 4 回歴史地震研究会幹事会 議事録

日時:2015 年 4 月 13 日(月)17:00～19:15

場所:地震予知総合研究振興会

出席者:松浦律子(会長)・小松原琢(副会長)・林 豊・内田篤貴・石辺岳男・金田平太郎(以上, 幹事)・
新谷勝行(行事委員)・諸井孝文(以上, 監査役)

1. 功績賞選考委員会の報告

林総務委員長から, 功績賞選考委員会では次回幹事会までに本年度の授賞候補者を決定する日程で選考作業を進めることが報告された.

2. 会員数の報告

内田財政委員長から, 1 月 30 日以降の入会の申込および大会の申し出はなく, 会員数は 296 名のままであることが報告された.

3. 歴史地震の発行について

金田編集出版委員長から, 以下のとおり報告, および編集経費と無償送付先変更の提案があった.

・『歴史地震』30 号への投稿 17 編の編集状況の報告があった. 受理済みが 5 件で, ほかは修正中, 査読中, 著者による修正中などである.

・編集ペースは順調であり, 5 月末までに各論文を受理し, 7 月末に発刊する予定である. 編集経費として, 査読用の印刷代・郵送料, 編集補助雇用を要するので承認いただきたい.

・アンケートの集計結果を踏まえた無償送付先の変更案を作成した. 無償送付に係る費用は発行頁数等によるが 30 号の場合は 1 箇所につき 1,000～1,100 円程度になる見込み.

報告を受けて, 編集経費の支出について承認した.

30 号以降の具体的な無償送付先を議論し, アンケートで継続送付が不要と回答した機関に加えて, 大学・研究機関・省庁・社団や財団法人のうち回答がなかった機関へも本号から配布を継続しないこととした. 国立・公立図書館には配布を継続して全都道府県に『歴史地震』がある状態を維持することとした. この結果, 次号の無償送付先は 197 箇所から 120 程度になる.

4. 広報について

石辺広報委員長から, 以下の通り報告があった.

・ホームページの情報について, 歴史地震第 29 号の PDF 版の掲載, 幹事会議事録の掲載, などの更新をした.

・musha メーリングリストに 2 名を新規登録した.

・京丹後大会の案内を 11 学協会に送った. 学協会により案内方法は異なり, ニュースレター(日本地震学会と日本活断層学会), メールマガジン(日本第四紀学会, 日本地質学会, 日本堆積学会), ホームページ掲載(日本第四紀学会, 史学会, 日本地質学会), 紙媒体でのお知らせ(史学会, 歴史学研究会, 日本史研究会, 日本歴史学会, 地方史研究協議会, 歴史科学協議会)による.

報告を受けて, 歴史地理学会と京都歴史災害研究会の連絡先を調べて追加で案内することとした.

5. 2015 年大会について

新谷行事委員から, 2015 年大会の準備状況と今後の予定について報告があった.

・昨日までに 4 人から 5 件(口頭講演 4, ポスター1)の発表申込を受け付けた.

・巡検ルートを下見してスケジュール案を作成し, 費用を概算した. 今後, 巡検資料を作成する予定.

・公開講演会は，植村善博（佛教大学）「北但馬・北丹後地震の被害と復興過程」，松井敬代（豊岡市教育委員会）「（仮）北但馬地震の復興建築」，新谷勝行（京丹後市教育委員会）「北丹後地震の記念碑・震災記念館と復興建築」の講演で構成する．

・プログラム確定後に，研究会会長名の依頼文書を受けて，京丹後市・京丹後市教育委員会との共催の手続きを始める．

以上の報告を受け，今後の準備の進め方について次のことを決定した．

・準備は順調に進んでいる．予定通り 5 月末の講演申込締切後に行事委員でプログラムを組む．その際，講演申込み数に応じた発表時間の決定や追加の講演の設定などで時間を調整する．プログラムの承認はメール審議とする．

・予稿集の作成部数は 7 月末締切の参加申込の状況で決めるが，会場近くに刷り増しできる場所がないことを考慮して，不足しにくいように多めに作ることにする．

6. 会計収支の問題について

内田財政幹事から，2006～2014 の各年度の研究会の収支と会員数の特徴について報告があった．

・会員数は 2009 年までは 190 人程度で横ばい，2010 年度から増えて 2014 年度に 260 人，現在はさらに増えて 290 人を超えた．収入は大部分が会費で，会員数の増加と共に着実に増えている．2013 と 2014 年度には滞納会費の徴収による収入がある．

・大会単独の収支は，黒字の時も赤字の時も多くて 10～20 万円．

・最大の支出項目は印刷費で，年度により増減があるが支出の約 7 割を占める．2013 年より『歴史地震』の印刷費が増加傾向にある．

・最近は会議費（幹事会への出席旅費）の支出が増加している．また，恒常的ではない支出項目として，功績賞とアーカイブ費などが加わった．アーカイブ費は今のところ実質の出金はない．

・現状の収支では，40 万／年の赤字となり繰越金がなくなる 4 年後には財政危機になる．

・年会費を 4,000 円にした場合，功績賞とアーカイブ費等の恒常的でない支出を除いて収支が均衡し，安定な財政となると考えられる．5,000 円では収入が支出を上回る程度になる．

以上の報告を受け，次のような議論があった．

・ホームページは，近いうちに静岡大学のサーバから別の場所に移す必要があり，歴史地震のアーカイブなども収録する必要があるので，ホームページ管理費は支出が増える要因となる．

・『歴史地震』の研究会報告の部分の文字を小さくすると頁数を減らせる．

・会計収支状況を会員に理解してもらうため，総会では単年度の予算とは別に，平年的な収支のシミュレーションを示せるよう準備をしたい．シナリオは次のとおり設定する．会員数は 300 人，大会は 3.5 日（発表会 2 日＋公開講演会 0.5 日＋巡検 1 日）で数年に 1 回は会場借料が発生，大会参加者数等は直近の実績値（参加者数は会員数×0.43，発表数は会員数×0.18，会誌への論文掲載数は会員数×0.06），会誌発行部数は会員数＋無償送付先 120 部，幹事会開催のための会議費は現在と同額，他の事務費も現在と同額，会費は 3,000 円と 4,000 円の 2 ケース．

7. 次回の幹事会

2015 年 7 月 6 日（月）17 時 00 分からを予定．

４．第 32 回歴史地震研究会（2015 年 9 月 21～23 日，京丹後大会）関係

第 32 回歴史地震研究会申し込み案内

■ 第 32 回歴史地震研究会(京丹後大会)のお知らせ 第 2 報

歴史地震研究会は，北但馬地震から 90 年，北丹後地震から 88 年の今年，9 月 21 日（月・祝日)～23 日(水・祝日)に，京都府京丹後市において下記の要領で第 32 回研究会を開催することになりました．講演の申し込みは 5 月 29 日(金)，巡検等の申し込みと講演要旨投稿は 7 月 31 日(金)が締め切りです．1927 年北丹後地震から復興した美しい歴史景観の町・京丹後で皆様とお会いできることを楽しみにしております．

記

歴史地震研究会第 32 回大会(京丹後大会)行事予定

1. 場所：

京丹後市峰山総合福祉センター2 階コミュニティーホール

京都府京丹後市峰山町杉谷 691 番地

（北近畿タンゴ鉄道【4 月からは京都丹後鉄道と改称】峰山駅下車徒歩 15 分，峰山駅より丹後海陸交通バスで丹後中央病院前下車すぐ）

2. 日程：

9 月 21 日(月) 午前・午後とも研究発表会・夜懇親会（6,500 円程度の予定）

22 日(火) 午前研究発表会・午後公開講演会・総会

23 日(水) 巡検

3. 巡検：「北丹後地震(1927)からの復興」

8 時ごろ峰山町発，丹後震災記念館等の復興関連遺産と郷村断層等を見学し，16 時ごろ峰山駅ないしは網野駅で解散.

参加費:6,000 円程度の予定(昼食・保険含)

定員:50 名. 定員に達し次第，申し込みを締め切らせていただきます.

4. 講演申し込み（締め切り 5 月 29 日）

発表者(共同研究の場合は発表者全員の名前と登壇者名)・題名・発表形式（口頭発表・ポスター発表のいずれか)を明記の上，5 月 29 日(金)までに行事委員会あてに電子メールでお申し込みください. ただし，発表形式は時間や会場の都合上ご希望に添えないことがあります. 2 件申し込まれる方は，うち 1 件以上をポスター発表としてください.

講演申し込み先は，rekishi2015@eri.u-tokyo.ac.jp (歴史地震研究会行事委員会)までお願いします. 予稿の作成方法は会のウェブサイトをご覧ください.

5. 研究発表会・巡検・懇親会への参加申し込み（締め切り 7 月 31 日）

研究発表会・巡検・懇親会への参加申し込みは，7 月 31 日(金)までに講演申し込みと同じく，メール rekishi2015@eri.u-tokyo.ac.jp にお申し込みください. 巡検への参加申し込みにあたっては，保険加入のため，氏名のほか住所・生年月日・電話番号(携帯電話可)をお知らせください.

6. 注意事項:

研究会では宿泊予約を扱いません. 峰山町内の宿泊施設は収容人数に限りがありますので，お早めに各自で施設に予約を申し込まれることをお勧めします.

各申し込みに行事委員会からの受領メールが 3 日経っても届かない場合は，お手数ですが，再度電子メールをお送り頂きますよう，お願いいたします.

第 32 回歴史地震研究会 プログラム等

■ 第32回歴史地震研究会（京丹後大会）のお知らせ (第3報)

歴史地震研究会第32回大会(京丹後大会)のプログラムが決まりました.

1925年北但馬地震から90年，1927年北丹後地震から88年を迎える今年，9月21日～23日(5連休後半)に京都府京丹後市峰山の京丹後市峰山総合福祉センターにて歴史地震研究会大会を開催いたします. 興味のある方はこの機会にぜひご参加ください.

なお，研究発表会参加者には予稿集代として会員1000円，非会員2000円をいただきます. また，懇親会 (参加費6500円)と巡検 (参加費6000円;定員50名)は，実費として参加費をいただきます. なお，巡検は会員優先とさせていただきますことを，ご了解くださいますようお願い申し上げます.

参加ご希望の方は7月31日までに電子メールrekishi2015@eri.u-tokyo.ac.jp (歴史地震研究会行事委員会)あてにお申し込みください. 巡検参加希望の方は保険加入のため氏名のほか，住所・生年月日・電話番号(携帯電話可)をお知らせください.

第32 回歴史地震研究会（京丹後大会）プログラム　発表者名に*を付けた方が登壇者です.

○ 9月21日（月曜・祝）研究発表会1日目・懇親会

8:00 開場・受付開始

口頭発表セッション1 平安時代～桃山時代の地震 (8:30～9:45)

O-1 石橋克彦*
「1099年康和南海地震は実在せず、1096年永長地震が東海・南海地震だった」という作業仮説

O-2 浦谷裕明*・小川典芳・久永哲也・内田篤貴・武村雅之・都築充雄
明応年間の関東地方における地震津波被害像と明応関東地震について

O-3 山本博文*・卜部厚志・佐々木直広
津波堆積物から見た若狭湾を襲った14～16世紀頃の大津波について

O-4 松岡祐也*
1586年天正地震における伊勢湾沿岸地域の被害について

O-5 松崎伸一*・日名子健二・平井義人
文禄五年豊後地震における奈多宮の津波高

口頭発表セッション2 江戸時代の地震Ⅰ (9:45～11:00)

O-6 西山昭仁*
寛文二年（1662）近江・若狭地震における京都盆地での被害評価

O-7 松浦律子*・中村 操
1703年元禄地震の新地震像

O-8 中村 操*・松浦律子

1707年宝永地震の余震被害について
O-9 今井健太郎*・高橋成実・大林涼子
最新の地下構造調査に基づく1833 年天保出羽沖地震の波源断層評価
O-10 木戸崇之*
伊賀上野地震で決壊した『奈良・古市村のため池』の位置について
休憩 (11:00～11:15)
口頭発表セッション3 江戸時代の地震Ⅱ (11:15～12:30)
O-11 都築充雄*・平井 敬・中井春香・山本真一郎・倉田和己
安政東海地震(1854)における愛知県の寺院被害状況の整理（その1）目的と地図情報化事例
O-12 鳴橋竜太郎*
南伊勢西部地域における安政東海地震津波（1854年）の被害状況
O-13 村岸 純*・佐竹健治・石辺岳男・原田智也・西山昭仁
1855年安政江戸地震における江戸近郊での被害
O-14 中村亮一*・西山昭仁・村岸 純・佐竹健治・石辺岳男
1855年安政江戸地震の広域震度分布の特徴とそれによる震源像について
O-15 矢田俊文*
1858年飛越地震の史料と家屋倒壊率―飛騨国を事例として―
昼休み (12:30～13:30)
ポスターセッション（13:30～15:15）
P-1 白石睦弥*
青森県・秋田県の日本海沿岸地域における歴史地震
P-2 石橋克彦*
1361年康安南海地震で法隆寺の塔の九輪は本当に燃えたのか？
P-3 石橋正信*・高橋成実・馬場俊孝・今井健太郎・大林涼子
和歌山県における津波碑の空間分布に関する現地調査
P-4 久永哲也*・内田篤貴・浦谷裕明・小川典芳・武村雅之・都築充雄
明応地震津波に関する東海地域での現地調査結果について(その4)
P-5 行谷佑一*・今井健太郎・村上仁士
安政南海地震津波による徳島県宍喰町での津波高さと被害分布
P-6 盆野行輝*
宝永・安政地震の城郭被害～志摩国鳥羽城を中心に～
P-7 小松原琢*
死者率に基づく内陸地震の震央の推定-安政飛越地震の事例-
P-8 蝦名裕一*・佐竹健治
明治三陸地震津波以前の災害認識―東京帝国理科大学の調査資料から―
P-9 松浦律子*
1894年明治東京地震，1895年霞ヶ浦の地震など，いくつかの明治・大正の地震の再検討（その3）
P-10 蟹江由紀*・蟹江康光・布施憲太郎
関東大震災の空撮と地上写真 ―逗子町の地盤液状化・津波・がけ崩れ−
P-11 西田良平*・香川敬生・野口竜也・石賀晶仁
北丹後地震・鳥取地震・北但馬地震の文献集
P-12 原田智也*・室谷智子・佐竹健治・古村孝志
地震直後に行われたアンケート調査による1944年東南海地震・1945年三河地震の震度分布
P-13 橋本雄太*・加納靖之・大邑潤三
Text Encoding Initiative ガイドラインに基づく古地震史料のマークアップ
P-14 兵藤守*・堀 高峰
数値シミュレーションからみた明応南海トラフ地震シナリオ
口頭発表セッション4 近代の地震 15:15～16:30
O-16 塩川太郎*
台湾における地震記念碑の変遷
O-17 武村雅之*
古都鎌倉の関東大震災を歩くー世代を越えた社寺復興

O-18 蟹江康光*・布施憲太郎・蟹江由紀
関東大震災の海軍空撮写真-はじめて公開された神奈川県沿岸域の写真を中心として-
O-19 蝦名裕一*・今井健太郎・首藤伸夫
山名宗真史料にみる岩手県沿岸の歴史津波
O-20 白石睦弥*
昭和三陸津波（1933）における共助と復興支援
口頭発表セッション5 南海トラフの地震履歴 16:30～17:15
O-21 谷川 亘*・山本裕二・村山雅史・井尻 暁・廣瀬丈洋・星野辰彦・若木重行・徳山英一
歴史南海地震の理解にむけた高知県西部の海底構造物の地質学的研究
O-22 三神 厚*・中西一郎・古川和輝・横山裕樹
南海トラフを震源とする地震による地殻変動に伴う四国の地盤の沈降や隆起
O-23 宍倉正展*・前杢英明・越後智雄・行谷佑一
紀伊半島南部串本周辺における古地震・古津波痕跡について
口頭発表セッション6 古地震データベースとその利活用 17:15～18:00
O-24 石辺岳男*・佐竹健治・村岸 純・鶴岡 弘・中川茂樹・酒井慎一・平田 直
テンプレートマッチングに基づく大地震の震源・発震機構解推定
O-25 山中佳子*
新収日本地震史料および拾遺のDB化とその検索システムの作成
O-26 加納靖之*・服部健太郎・中西一郎・安国良一・五島敏芳・渡辺周平・岩間研治・福岡 浩
京都大学理学部に所蔵されている自然災害史料の解読と画像化
18:40～20:40 懇親会

○9月22日（火曜・祝）研究発表会2日目・公開講演会・総会
口頭発表セッション7 戦前～戦後の地震 8:00～9:15
O-27 林信太郎*・渡部公成・吉成洸人
1939年男鹿地震と1955年二ツ井地震-地震体験者へのヒアリング調査
O-28 香川敬生*・畑岡 寛
1943年鳥取地震直後に実施された東京大学地震研究所の現地調査の足取り
O-29 中井春香*・武村雅之
三河地震の石碑にみる土地改良と復興の歴史
O-30 安藤正純*
昭和南海地震における宮崎県の被害状況
O-31 樋口茂生*・阿部裕寛・東 将士・稲田 晃・伊藤彰秀・岩本広志・上加世田 聡・川崎健一・楠 恵子・佐藤伸司・品田正一・末永和幸・渡邉拓美
現代生成層−災害との関わりの補遺−
口頭発表セッション8 災害伝承と地震・津波防災 9:15～10:45
O-32 井上公夫*・相原延光
「びゃく」という土砂災害の事例紹介と分布について
O-33 相原延光*・井上公夫
”びゃく”の言語学的調査の紹介
O-34 河内一男*
地震に関する地名はなぜ残らなかったのか
O-35 松尾裕治*・村上仁士
四国の防災風土資源マップ～地震・津波事例について～
O-36 （招待講演：発表時間20分）岡本侑也*・東海志音*・平田美緒*
印南中学校の津波防災教育の取り組み（災害記録を利用した取り組みを中心として）
O-37 (発表時間10分) 宇佐美龍夫*
續 なゐの反古拾い
休憩 10:45～11:00
口頭発表セッション9 京丹後周辺の地震・津波と活断層 11:00～12:30
O-38 都司嘉宣*
昭和2年(1927)北丹後地震の家屋倒壊と死者率のちがいについて
O-39 水田敏彦*・鏡味洋史
1927 年北丹後地震の積雪による被災と対応に関する文献調査

O-40 中西一郎*・服部健太郎・加納康之・渡辺周平
京都大学に残る1925年北但馬地震・1927年北丹後地震調査資料について(2)
O-41 内田淳一*・宮脇昌弘
郷村断層沿いに見いだされる断層露頭と断層ガウジの色彩の特徴
O-42 羽鳥徳太郎*
山陰沿岸における歴史津波と日本海東縁津波の波高分布
O-43 新谷勝行*
『丹後地震誌』の編さんとその意義～郷土史家永浜宇平が残した丹後震災の記録～
昼休み 12:30～13:30
公開講演会「丹後震災から88年－地震災害と復興－」(仮)13:30～16:00 (参加費無料・自由参加)
植村善博(佛教大学)「北但馬・北丹後地震の被害と復興過程」
松井敬代(豊岡市教育委員会)「(仮)北但馬地震の復興建築」
新谷勝行(京丹後市教育委員会)「北丹後地震の記念碑・震災記念館と復興建築」
総会 16:40～17:40

○9月23日(水曜・祝)巡検「北丹後地震(1927)からの復興」
9:00 峰山町総合福祉センター出発 →(徒歩移動) 峰山町内震災復興建築など, 丹後震災記念館
→ (バス移動) 郷村断層 → 琴引浜・琴引浜鳴き砂文化館 → 京都丹後鉄道網野駅16:00 解散

５．各種お知らせ・資料

『歴史地震』原稿募集のおしらせ

会誌『歴史地震』では, 通年, 投稿を受け付けておりますが, 2016 年 5 月末発行予定の次号(第 31 号)に掲載希望の方は, 2015年11月30日(月)までにご投稿をお願いいたします(例年より１ヶ月半ほど早くなっておりますのでご注意ください).

1. 募集原稿の内容

『歴史地震』は, 歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成し, 記事の種別として, 論説, 資料, 講演要旨, 報告, 紹介を取り扱います. 編集出版委員会では, 第31号を次の記事を中心に構成する方針です.

(1) 2015 年 9 月の第 32 回歴史地震研究会での発表内容に関連する記事
(2) 昨年までの研究会で発表された内容, あるいはそのほかのオリジナルな内容に関する記事
(3) 2015 年 9 月の第 32 回歴史地震研究会の講演要旨集に掲載された講演要旨

これらのうち, (1) (2)の投稿をお待ちしています.

2. 編集体制と編集方針

『歴史地震』は以下の編集体制・方針を取っております.

1. 編集出版委員会で編集作業を進めます.
2. 論説および資料については, 査読制を取り入れています. 少なくとも 1 名の査読者が原稿を読んで意見を著者にフィードバックし, 不備を指摘・訂正していただきます.
3. 原稿を作成する標準的な体裁「『歴史地震』の標準形式」を定めています. この形式に従った Word ファイルが歴史地震研究会のウェブサイト (http://sakuya.ed.shizuoka.ac.jp/rzisin/) からダウンロードできますので, この Word ファイルを書き換える形で原稿を準備されることをお奨めします.
4. 電子ファイルでの投稿を奨励します. 少なくとも本文は電子ファイル(フロッピーディスク等あるいはメール)で投稿していただけると, 編集作業が効率的に行えますので, ご協力をお願いいたします.
5. 「投稿シート」(次頁に記載)に必要事項をご記入のうえ, このシートとともにご投稿ください. 「投稿シート」は上記ウェブサイトからもダウンロードできます.
6. 最終原稿は, 印刷物としての『歴史地震』のほか, PDF 版として歴史地震研究会のウェブサイトで一般に公開します. 原則として, 印刷物はモノクロで刊行します.
7. その他詳細は, 編集規定をご覧ください.

3. 投稿先

・電子メールでご投稿の場合:histeq@erc.adep.or.jp
※ 添付ファイルが 5MB 以上の大きさになる場合には, CD などに焼いてご郵送ください.
※ 原稿を受領した場合は, 必ずその旨の返信をしております. 一週間以上経過しても受領の連絡がない場合には, 何らかの原因でファイルを受け取ることができていない可能性がありますので, お手数ですが, 上記アドレスまで再度お問い合わせください.
・郵送でご投稿の場合:〒101-0064 千代田区猿楽町 1-5-18 千代田ビル 8F
地震予知総合研究振興会内 歴史地震研究会編集出版委員会 宛
※ 郵送で投稿する場合は, 必ず, 上記アドレスにも連絡して下さい.
・ご投稿の際には, 忘れずに「投稿シート」をご提出ください.

『歴史地震』投稿シート

ver.201207

＜基本情報＞

記事の種類	論説 ・ 資料 ・ 報告 ・ 紹介　　※ 論説および資料の場合は，査読の対象となります．	
記事タイトル		
著　者		
連絡責任者	氏　名	
	所　属	
	郵便番号	〒
	住所	
	電話番号	
	電子メールアドレス	

＜質問・チェック事項＞

記事について

（1）記事の内容は過去の歴史地震研究会で発表した内容ですか？	はい ・ いいえ
・「はい」の場合，発表年および開催場所をご記入ください	
※ 発表済の場合は，編集出版委員会の判断で，通常2名以上の査読者を1名とすることができます（論説，資料の場合）．	

体裁・形式について

（2）原稿は，歴史地震研究会ウェブサイトからダウンロードした標準形式のWordファイルを書き換えて作成したものですか？	はい ・ いいえ
・「いいえ」の場合，以下の標準形式に従っていることを十分に確認してください． □ A4 サイズ，左右の余白各2cm，上下の余白各2.5cm □ フォントは和文が明朝体，英文がTimes □ 文字サイズは，和文タイトル16 pt ，英文タイトル12pt，所属・著者名10.5pt，英文要旨10.5pt. □ 著者の連絡先は和文の所属に脚注として加える． □ キーワードは英文要旨の次の行に　Keywords: xxxx, wwww, zzz. のように記入する． □ キーワードの下でセクションを切り替え，本文は2 段組とする．段の横幅は8cm，段の間は7mm 程度，1 行22文字，1 ページ45 行とする． □ 本文の文字サイズはすべて10.5pt ．	

(3) 記事の種類が「論説」あるいは「資料」の場合，英文の表題，英文の著者名・所属，英文要旨（200 語程度），英文キーワードを備えていますか？	はい ・ いいえ
(4) 句読点は「，」と「．」で統一されていますか？ ※ されていない場合は検索・置換ツールを使って統一してください	はい ・ いいえ
(5) 本文中で和暦と西暦が混同されるおそれはないですか？ ※ 歴史地震研究会では，混同を避けるため，和暦には漢数字（宝永四年十月四日など），西暦にはアラビア数字（1707年10月28日など）を使うことを推奨しています．	はい ・ いいえ
(6) 西暦1582 年以前の西暦は（グレゴリオ暦ではなく）ユリウス暦を用いていますか？	はい ・ いいえ
・「いいえ」の場合，使っている暦の種類が明記されていますか？	はい ・ いいえ

図・写真について

(7) 既公表の文献（自分で公表したものも含む）や機関・個人が所蔵している史料から転載した図や写真はありますか？	はい ・ いいえ
・「はい」の場合，出版社・学会や機関，個人に転載許可をとっていますか？	はい ・ いいえ
(8) 製本（印刷）版でカラー図・写真の掲載を希望しますか？	はい ・ 検討中 ・ いいえ
・「はい」もしくは「検討中」の場合，希望する図・写真の番号をご記入ください	
※ カラー図を希望された場合，本文中にはモノクロの図が掲載され，そのカラー版が口絵として巻頭に再掲される格好となります．なお，カラー頁料金（例年，1頁あたり22000円程度）が発生します． ※ 歴史地震研究会ウェブサイトで公開される電子版（PDF版）では，希望の有無に関わらず，フルカラーとなります．	
(9) カラー掲載しない図について，モノクロ印刷で必要な情報が判読・識別可能ですか？	はい ・ いいえ

歴史地震研究会会誌編集規定（2007年10月4日制定， 2009年7月23日一部改定，2012年8月8日一部改定）

総則

1. 本規定は，歴史地震研究会（以下，本会）の会誌の投稿，査読，編集および出版に関する手順と規則を定めるものである．
2. 本会が発行する会誌の名称は，『歴史地震』とする．英文では，Historical Earthquakes と表記する．
3. 本会の会員は，会誌に原稿を随時投稿できる．また，会員以外からの投稿も適宜受け付ける．
4. 編集出版委員会は，会員または会員以外に記事の執筆を依頼することができる．
5. 本誌の質を高めることを目的として，査読制を採用する．査読の対象とする記事の種別，および査読の手順と基準は，細則に定める．
6. 会誌の記事の投稿から出版までの順序は次のとおりとし，詳細は細則に定める．
   (1) 投稿者は，編集出版委員会に原稿を提出する．
   (2) 編集出版委員会は，投稿された原稿を速やかに受け付け，受付日を記録する．また，原稿毎に編集出版委員会の構成員のうちから編集担当者を決定する．
   (3) 編集担当者は，投稿された原稿を細則に定める基準に従って点検し，必要と判断した場合は，著者に修正を要求することができる．
   (4) 査読の対象となる原稿は，以下の査読手順を経ることとする．
      a) 編集出版委員会は，会員または会員以外から査読者を選定する．
      b) 査読者は，細則に定める基準に従って原稿を点検し，編集出版委員会に意見を提出する．
      c) 編集出版委員会は，投稿された論文の掲載の採否を，査読者の意見に基づいて決定する．
   (5) 編集出版委員会は，掲載を可とした原稿について，受理日を記録する．
   (6) 投稿者は，原稿を校正および清書した後，最終原稿を編集出版委員会に提出する．
7. 各事業年度の会誌の発行号数および部数は，総会が決議した事業計画に沿う．また，会誌に掲載した記事は，本会のホームページで公開する．
8. 会誌に掲載された記事の著作権は，本会に帰属する．
9. 記事の著者は，個人ホームページおよび所属機関リポジトリページ等において，記事の電子ファイルを公開することができる．ただし，以下の点をすべて満たすことを条件とする．
   (1) 本会ホームページで公開している電子版記事（PDF）を用いること．別刷として著者に配付される高解像度 PDF や冊子版記事をスキャンして作成した電子ファイルの公開は認めない．
   (2) 記事の著作権の本会への帰属を明記すること．
   (3) 記事の出典を明記すること．

細則

（原稿の種別）

1. 会誌は，歴史上の地震・火山噴火ならびにそれに関連する諸現象・諸問題を対象とする記事で構成する．記事の種別は，論説・資料，講演要旨，報告・紹介，研究会記事とする．
2. 記事の種別は，次の基準で分類する．
   (1) 論説・資料は，次のいずれかであり，査読の対象となる．
      a) 著者による未発表の新知見を含む研究成果を記した論文
      b) データ・文献・史資料を系統的に収集・整理・分類し，研究に寄与する価値を有する論文
   (2) 講演要旨は，直近の研究発表会または講演会で発表済みの研究成果の要旨である．
   (3) 報告・紹介は，研究集会の報告，研究プロジェクトの紹介，著書の紹介など，新しい情報に関する短い記事である．
   (4) 研究会記事は，本会の活動に関する報告または連絡の記事である．原則として，幹事会または各委員会が執筆する．
3. 記事の刷り上り時の分量は A4 判で，論説・資料は 3～20 頁，講演要旨は 1～2 頁，報告・紹介は 4 頁以下を標準とする．ただし，編集出版委員会が特に必要と認めた場合は，この限りではない．
4. 記事の構成は，次のとおりとする．
   (1) 論説・資料および報告・紹介は，表題（和文と英文），著者・所属（和文と英文），要旨（英文 200 語程度）・キーワード（英文 5 語程度），本文（和文，図・表・引用文献を含む）で構成する．ただし，報告・紹介では，要旨とキーワードを省くことができる．論説には対象とした地震名を引用文献の前に明記する．
   (2) 講演要旨は，表題（和文），著者・所属（和文），本文（和文，図・表・引用文献を含む）で構成する．ただし，英文で表題，著書・所属を加えてもよい．

（投稿者）

5. 投稿者は，記事の種別，著者の連絡先を明記して，郵送または電子メールで編集出版委員会宛に原稿 1 部を提出する．A4 判の用紙で標準書式にならって原稿を作成することが推奨される．
6. 依頼により原稿を執筆する著者に対して，本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる．
7. 投稿者は，編集出版委員会から査読者の意見と編集者の判定を受け取った後，原稿を点検し，必要な修正を加えた修正稿を編集出版委員会に提出する．

8. 投稿者と査読者の意見が対立した場合は，投稿者は編集担当者に対して，編集出版委員会が別の査読者を選定して意見を求めるよう請求できる．
9. 投稿者は，編集出版委員会からの受理の通知後，高品質に印刷した最終稿および電子原稿をすみやかに編集担当者に提出する．電子原稿は，編集出版委員会が定める標準書式に従って作成することが推奨される．
10. 投稿者は，付則に定める掲載料を支払わなければならない．

（編集担当者）

11. 編集担当者は，投稿された原稿を以下の点について判定する．
    (1) 明白な誤りがないか
    (2) 内容が会誌の対象の範囲に合致するか
    (3) 記事の種別が適切か
12. 論説・資料として投稿された原稿について，編集担当者は，細則 11 項による編集担当者自らの判定と，査読者の意見を基に，原稿の取り扱いを次の中から決定する．
    a) 掲載可
    b) 修正を条件に掲載可
    c) 修正後に再査読し，その後に再度判定
    d) 編集出版委員会で協議して取り扱いを判定
    e) 掲載不可
    f) 原稿種別の変更

    ただし，原稿の不備が改善しうると期待できる場合は b)，原稿種別を変更すべき場合は b)，原稿に相当大幅な修正を要する場合は c)，複数の査読者の意見が大きく異なる場合は d)，原稿に修正困難な明白な誤りがある場合は e)，細則 1 項に定める会誌の対象の範囲に合致しない場合には e)，原稿種別を変更して掲載する場合には f)，と判定する．但し，f)の場合には原稿の文末に編者注を付け，編集者により変更に至った経緯を明記する．
13. 講演要旨および報告・紹介の編集担当者は，必要に応じて投稿者に修正を求めることができる．

（査読者）

14. 査読者は，査読を通じて会誌の質を高めるよう努める．
15. 査読者数は，論説・資料は 2 名以上とする．ただし，直近の研究発表会または講演会で既発表の内容に基づく原稿については，編集出版委員会の判断で，査読者数を 1 名とすることができる．編集出版委員会が査読者を人選し，依頼する．
16. 査読手続きに必要な郵送料は本会が負担する．また，会員以外の査読者に対して，本会は幹事会が決定する額の謝礼を支払うことができる．
17. 査読を依頼され，専門分野などの理由で査読が不可能と判断した場合は，すみやかに，編集出版委員長または編集担当者に通知することとする．また，査読者は，専門分野などの理由で必要な場合，編集担当者を通じて，査読者の追加あるいは会員による助言を要求できる．
18. 査読者は，内容に明白な誤りがある場合，表現が不適切な場合，論理に問題がある場合，原稿の種別が適切でない場合のいずれかに該当する原稿に対しては，改善意見を述べることとする．また，論説・資料については，細則 2 の要件を満たしているか否かを判定し，編集担当者に対して，原稿の取り扱いについての意見を示すこととする．

（その他）

19. 編集出版委員会は，特定のテーマを設定して会誌の原稿を募集し，会誌に特集を編むことができる．
20. 編集出版委員会は，投稿者の参考のために原稿の標準書式を，査読者の参考のために原稿点検の標準チェックシートを，それぞれ作成する．

付則

1. 掲載料は次のとおりとする
    (1) 連絡担当著者が会員の場合

    全頁モノクロであり，かつ細則 3 に定める標準の頁数以内であれば，掲載料は無料とする．カラーの頁を含む場合は，モノクロ頁との印刷経費の差額に相当する実費をカラー頁分が掲載料として課される．また，標準の頁数を超過した場合は，会誌発行経費の頁単価に，超過分の頁数をかけた額が掲載料として課される．

    (2) 連絡担当著者が非会員の場合

    会誌発行経費の頁単価に，印刷時の頁数をかけた額が掲載料として課される．カラーの頁については，会員と同じとする．

    (3) 依頼による執筆の場合は，前二項によらず，掲載料は無料とする．
2. 本規定は，2013 年発行の『歴史地震』第 28 号より適用する．

歴代研究会開催地一覧

これまでの開催地と，特集した地震をまとめた．なお 2015 年以降は予定である．

回	年	場所	特集地震	回	年	場所	特集地震
1	1984	東大地震研		18	2001	象潟	象潟
2	1985	東大地震研		19	2002	立山	飛越
3	1986	東大地震研		20	2003	佐倉･九十九里	元禄
4	1987	東大地震研		21	2004	鳥羽	安政東海
5	1988	静岡		22	2005	江戸東京博物館	安政江戸
6	1989	東大地震研		23	2006	大船渡	明治･昭和三陸･チリ津波
7	1990	大阪		24	2007	下田	安政東海
8	1991	徳島		25	2008	つくば	関東
9	1992	東大地震研		26	2009	大津	姉川･元暦
10	1993	江戸東京博物館		27	2010	東大地震研	
11	1994	須崎	安政南海	28	2011	新潟	名立崩れ
12	1995	田老町	明治･昭和三陸	29	2012	横浜	関東
13	1996	田辺	昭和南海	30	2013	秋田	
14	1997	島原	島原	31	2014	名古屋	東南海
15	1998	浜名湖	明応東海	32	2015	京丹後	北但馬･北丹後
16	1999	伊賀上野	伊賀上野	33	2016		
17	2000	長野	善光寺	34	2017		

歴史地震研究会への入会手続きのご案内

歴史地震研究会に入会をご希望の方は，次頁の申請書に必要事項を記入して，係（財政委員長）までお送り下さい．

送り先：日本物理探鑛（株）関東支店　内田篤貴（当会財政委員長）
〒143-0027　東京都大田区中馬込 2-2-12
FAX.03-3774-9353　電子メール：auchida@n-buturi.co.jp

歴史地震研究会入会申請書

歴史地震研究会会長　殿
歴史地震研究会への入会を申請いたします

年　　月　　日

ふりがな 氏名			関連分野	
生年月日	年　　月　　日		性別	男　・　女
所属機関	名称･部署			
	住所 電話番号･FAX 電子メール	〒 TEL：　　FAX：		
自宅	住所 電話番号･FAX 電子メール	〒 TEL：　　FAX：		
会誌送付先		1. 所属機関　　2. 自宅		

きりとり

注 1：申請書に記された情報は歴史地震研究会の活動以外の目的には使用しません．
注 2：会員に配布される名簿に記載されることを希望しない項目は () 内に記入してください．
注 3：希望する会誌送付先に○印を記してください．

名簿欄記入例（自宅情報は非開示，所属先に会誌送付希望の場合）

ふりがな 氏名	じしん　さぶろう 地震　三郎		関連分野	災害科学
生年月日	19○○年　○○月　○○日		性別	男　・　女
所属機関	名称･部署	歴史地震研究所･災害研究課		
	住所 電話番号･FAX 電子メール	〒000-0001　東京都弥生区文京 1-1-1 TEL：00-0000-0001　　FAX：00-0000-0002 ○○@○○．○○		
(自宅)	住所 電話番号･FAX 電子メール	〒000-0001　東京都弥生区文京　マンション耐震 1-1 TEL：00-0000-0003　　FAX： ○○○@○○．net.jp		
会誌送付先		1. 所属機関　　2. 自宅		

歴史地震研究会会則

（2000 年 10 月 1 日制定, 2002 年 9 月 7 日改定, 2006 年 9 月 16 日改正,
2008 年 9 月 14 日改正, 2012 年 9 月 15 日改正）

第 1 章　総　則

（名　称）

第 1 条　本会は,『歴史地震研究会』(The Society of Historical Earthquake Studies)という.

（目　的）

第 2 条　本会は, 歴史上の地震ならびにそれに関連する諸現象・諸問題に関して, 理学, 工学, 人文科学, 社会科学, および防災科学の研究を促進し, 相互の情報交換を行うとともに, 一般市民を交えた知識の共有と相互理解をはかることを目的とする.

（事　業）

第 3 条　本会は, 前条の目的を達成するために, 次の事業を行う.

(1)　研究成果発表会および講演会
(2)　会誌の刊行
(3)　広報活動
(4)　歴史地震研究に関する業績の表彰
(5)　その他, 必要な事業

（事務所）

第 4 条　本会は, 事務所を東京都千代田区猿楽町 1-5-18　公益財団法人　地震予知総合研究振興会に置く.

（事業年度）

第 5 条　本会の事業年度は, 毎年 9 月 1 日に始まり, 翌年 8 月 31 日に終わる.

（会則改正）

第 6 条　この会則は, 総会において, 表決権を持つ出席者の 3 分の 2 以上の賛成により, 改めることができる.

（規　定）

第 7 条　この会則の実行に必要な規定は, 幹事会の議を経て別に定める.

第 2 章　会　員

（会　員）

第 8 条　本会は次に定める会員からなる.

(1)会　員　本会の目的に賛同する個人

第 9 条　会員は付則に定める年会費を, 各年度始めに納入しなければならない.

（会員の特典）

第 10 条　遅滞なく会費を納めている会員は, 次の特典を有する.

(1)　会誌の配布を受けること
(2)　研究発表会において, 研究成果を発表すること
(3)　会誌へ論文などを投稿すること
(4)　総会に出席し, 表決権を行使すること
(5)　総会または幹事会に対して議論すべき事項を提案すること

（入　会）

第 11 条　会員になろうとするものは, 所定の申し込み書を会長に提出し, 幹事会の承認を得なければならない.

（退　会）

第 12 条　退会しようとする会員は, 会長に退会届を提出しなければならない. この場合, 未納会費がある時は, それを全納しなければならない.

（入退会時期）

第 13 条　会員の入退会は, 事業年度を単位とする.

（除　名）

第 14 条　本会の会員として著しく不適切な行為のあったと判断されたものは, 幹事会の議を経て, 会長はこれを除名することができる.

第 3 章　役　員

（役　員）

第 15 条　本会に, 次の役員を置く.

(1)　会　長　1 名
(2)　副会長　1 名
(3)　幹　事　5 名
(4)　監査役　2 名

第 16 条　会長は会員の中から総会で選出する.

2 副会長および幹事は会長が会員の中から委嘱する.
3 監査役は会員の中から総会で選出する.
4. 会長および監査役の選出手続きは付則に定める.
第 17 条 会長は本会を代表し, 会務を総理する.
2 副会長は会長を補佐し, 会長不在時には会長を代行する.
3 幹事は幹事会を構成し, かつ総務, 財政, 行事, 広報, 編集出版の各委員長をつとめる.
4 監査役は本会の業務の執行および会計を監査する.
5 各委員会の委員は委員長が選任し会長が委嘱する.

第 4 章 総会および幹事会
（総会の招集）
第 18 条 総会は年1回, 会長が招集する. 総会は会員の 10 分の 1 の実出席を要する. 委任状は発行しない.
（総会の決議事項）
第 19 条 総会では次のことを行う.
(1) 次期会長の選出
(2) 次期監査役の選出
(3) 前年度の事業経過および決算報告と, その承認
(4) 次年度の事業計画および予算案の提案と, その承認
(5) 会則の改正
(6) その他
（幹事会）
第 20 条 幹事会は会長が招集し年 2 回以上行う. 議長は会長が行う. その他幹事からの提案で, 臨時に開くことができる. 幹事会は幹事の 2/3 以上の参加をもって成立し, 決定は出席者の過半数をもって行う. 幹事会は代理出席を認める.

第 5 章 会 計
（資 産）
第 21 条 本会の事業は会費, 寄付金, 事業に伴う収入および雑収入によって行う.
（事業計画・予算案）
第 22 条 本会の事業計画およびこれに伴う予算は, 会長および財政委員長がこれを幹事会の議を経て作成し, 総会の議決にもとづき執行する.
（事業計画・収支決算の監査）
第 23 条 本会の事業報告および収支決算は, 会長および財政委員長がこれを作成し, 監査役の監査を経て幹事会および総会において承認を受けなければならない.

付 則
第 1 条 第 10 条による会費は, 次の通りとする.
会員 3000 円
第 2 条 第 16 条による会長選出手続 会長候補者は 3 名以上の推薦者をもって立候補し, 総会の 1 週間前までに幹事会に届け出る.
第 3 条 第 16 条による監査役選出手続 監査役は 3 名以上の会員による推薦を受けた者の中から総会で選出される. 推薦者ないし被推薦者は総会開催前に幹事会に届け出る.
第 4 条 本会則は, 2008 年 9 月 15 日から施行する.

組 織
総務委員会
文書の受付, 配布, 会誌『歴史地震』の発送
歴史地震研究発表会の開催に関する事項
財政委員会
予算の編成, 決算に関する事項および研究会の財政に関する企画
普通会員の入退会, 除籍に関する事項および名簿に関する事項
行事委員会
歴史地震研究発表会の開催に関する事項および他学会協賛に関する事項
広報委員会
歴史地震研究発表会および会誌『歴史地震』の広報に関する事項
編集出版委員会
会誌『歴史地震』の編集出版に関する事項

歴史地震研究会功績賞内規

平成 24 年 9 月 15 日幹事会承認

第 1 条　本規定は、歴史地震研究会会則第 3 条(4)項に規定する業績の表彰に基づき、歴史地震研究の進歩・発展ならびに本会の発展に対して顕著な功績を挙げられた方に贈る「歴史地震研究会功績賞」に関して定める。
第 2 条　本賞の対象は、本会会員とする。なお、本賞の既受賞者は対象から除く。
第 3 条　対象業績は歴史地震研究の進歩・発展、歴史地震研究会の発展に対するものとする。
第 4 条　授賞式は、会員総会の場において行い、受賞者に賞状を贈る。
第 5 条　功績賞選考委員会が受賞者の選考を行い、幹事会が決定する。功績賞選考委員会は、正・副会長、総務幹事、財政幹事から構成する。

附則;1. この内規は、幹事会で変更することができる。
2. この内規は、平成 24 年 9 月 15 日より施行する。

歴史地震研究会役員および委員名簿

（2015 年 7 月 1 日現在）

役員名簿

会長　松浦律子
副会長　小松原琢
幹事　林　豊, 内田篤貴, 植村善博, 石辺岳男, 金田平太郎
監査役　北原糸子, 諸井孝文

委員名簿

総務委員会　委員長　林　豊
財政委員会　委員長　内田篤貴
行事委員会　委員長　植村善博　委員　新谷勝行, 小松原琢, 堀川晴央, 行谷佑一
広報委員会　委員長　石辺岳男
編集出版委員会　委員長　金田平太郎　委員　石辺岳男, 内田篤貴, 小田桐（白石）睦弥, 小松原琢, 行谷佑一, 松浦律子, 諸井孝文, 吉田律人